

学 校 経 営 方 針

大田区立赤松小学校
校長 飯島 典子

本校は、いつの時代でも、学校を思う地域・保護者の支えがあり、地域に誇れる学校として存在してきた。保護者の期待も大きく、「地域に愛され、信頼される学校」として着実に歩み続けている。なお一層地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が協働した「赤松小の教育」を推進していく。

1 学校経営の基本方針

(1) 目指す児童像（学校教育目標）

教育基本法、学校教育法、諸法令をはじめ、東京都及び大田区教育委員会の教育目標を踏まえ、人間尊重の精神に基づき、心身ともに健康で、知性と感性に富み、主体的に活動し、国家及び国際社会の一員としての自覚をもった、心豊かでたくましい児童を育成するために、次の児童像をかかげ教育活動を行う。

- つよくたくましい赤松の子
- よく考えくふうする赤松の子
- こころゆたかな赤松の子

(2) 目指す学校像

全教職員が一丸となって、あたたかい人間関係、落ち着いた学習環境を大切にし、「知」「徳」「体」バランスのとれた力を目指す。開校142年という歴史と伝統ある赤松小学校のこれまでに築いてきた教育実践のよさや成果を確実に継承するとともに、地域一体型複合施設校舎の完成を目指して、特色ある教育活動を実施する。

また、ユネスコスクールとしてESD（持続可能な開発のための教育）の推進に向けて、現在の教育課題を的確に捉え、将来の在り方を見据えながら教育活動を展開し、常に前進し続ける学校を目指す。

㊦ かるく ㊧ しこく ㊨ つすぐに ㊩ かむ ㊪ なげる 赤松の子
～未来に向けてともに学び 地域とともに歩む赤松小学校～

- ① 児童が楽しく通う学校を目指し、一人一人を大切にされた教育活動を行うとともに、授業の充実を図る。安心・安全な学校生活のために学習環境を整え、課題の早期発見と迅速な対応をする。
- ② 保護者に信頼される学校を目指し、全教職員がサービスの厳正に努める中で、教職員の信頼・専門性を高め、一丸となり、一貫した指導を行う。児童・保護者・地域を正しく理解し、教職員は誠意をもってかかわりを深める。教育活動の積極的な発信をする。
- ③ 地域に愛される学校を目指し、学校支援地域本部「スクールサポートあかまつ」との連携を図り、特色ある地域に開かれた教育活動を推進する。

2. 学校経営の基本方針を達成するための方策

「おおた教育ビジョン」とその重点的な取組であるプランを受けて、教育目標の実現に向け家庭・地域の教育力との連携し、児童の確かな学力の定着と豊かな心の育成を目指す。

プラン1 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】

- ・すべての教育活動において言葉を大切にし、対話を通してコミュニケーション能力、思考力の育成を図る。
- ・「E S D 持続可能な社会づくりに向けた教育」の日常化により、多様な人々と協働しながら様々な社会的な変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる児童の育成を目指す。
- ・学校教育の質が向上するよう I C T を効果的に活用し、高度情報化社会に対応できる児童を育成する。

プラン2 学力の向上【知】

- ・基礎・基本の定着と確かな学力を育成する。
「赤松タイム（始業前15分）」
習熟度別算数少人数指導 ステップ学習
理科教育の充実
- ・各教科で育成を目指す資質・能力を明確にし、カリキュラム・マネジメントを充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現により思考力・判断力・表現力を育成する。
課題解決学習、対話を取り入れた学習の充実
タブレット端末を利用した学習
体験学習の充実
- ・児童の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組めるよう教材の開発や工夫をし、意欲あふれる学びを実現する。

プラン3 豊かな心の育成【徳】

- ・相手を思いやり、良好な人間関係を築く力を育成する。そのために、教職員が自らあたたかい言葉遣いで児童に接するとともに、自分の気持ちを言葉で伝えられる児童の育成を目指す。
- ・全教職員ですべての児童を育成する組織とする。
複数による指導
専科副担任制
異学年の交流
- ・児童一人一人を大切にした教育活動を行う。
確かな児童理解
あたたかな言葉かけ
公平な対応
- ・「特別の教科 道徳」を中心にした道徳教育の充実を図る。
発達段階に応じた指導の目標を明確にし、児童の実態に応じた指導を行う
あらゆる教育活動における道徳教育の実践
日常の教育活動や道徳授業地区公開講座による家庭や地域との連携
- ・「赤松スタンダード」に基づいた一貫性のある生活指導を行う。
学校のきまりについて「なぜそうするのか」「どうしたらよいか」を考えさせるよう、教職員が一丸となって一貫した指導をする。
チームとしての取組 複数による指導
- ・個々の思いに丁寧に耳を傾け、双方に「どうすればよかったか」について考えさせ、児童自身が納得できる指導をする。

プラン4 体力の向上と健康の推進【体】

- ・校舎改築により校庭が使用できない状況下のため、校内で無理なくできることや地域を活用した体力向上の工夫をする。
洗足池グラウンド、体育館、屋上等を活用した体力づくり
「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動の実施
- ・家庭との連携による基本的な生活習慣の確立と食育の充実を図る。

プラン5 魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

- ・教職員の信頼、専門性を高める。
管理職の承認のもと計画的な教育活動を実施する。
(各学年、分掌ごとに年間計画の作成、週ごとの指導計画)
- ・教師としての専門性を高める。
研修会、研究会への参加
新しい内容や情報についての共有
O J Tの推進
- ・よく分かる、楽しい授業の実施をする。
校内研究を生かした授業力の向上
めあてと振り返りを大切に授業
I C T機器を効果的に活用した授業
- ・支援が必要な児童についてのケース会議や全体会を定期的に行い、共通理解を進める。
サポートルームとの連携をとり個に応じた指導の充実を図る。
- ・児童自身が企画、運営することで、異学年の結びつきを深める。
「なかよし班」
小動物の飼育
金管バンドの引き継ぎ

プラン6 学校・家庭・地域が一体となって進める教育【学校・地域・家庭】

- ・いじめの未然防止 早期発見 早期対応や不登校について向け、学校・家庭・地域が一体となって取り組む。
保護者との丁寧な連絡
「学校生活調査」(4年生以上)
いじめ防止対策委員会の実施 いじめに関するアンケート(学期1回)
関係機関との連携
- ・学校地域支援本部「スクールサポートあかまつ」や保護者の方との連携により教育活動をすすめる。
「赤松サマーフェスティバル」「昔遊び」
パワーアップ教室
図書ボランティア「本のつばさ」
ゲストティーチャーの活用
- ・児童一人一人個性を伸ばし、学校、家庭、地域における学びを自己のキャリア形成に生かす態度を養う。
「キャリア・パスポート」の活用(小学校・中学校)
- ・教育活動の積極的な発信をする。
年間6回の学校公開
学校だより、学年だより、ホームページの充実
「あかまつDIARY」による教育活動の発信
学校評価の実施と公表
- ・特色ある地域に開かれた教育活動を行う
洗足池公園の活用
地域一体型複合施設校舎の完成を目指して

すべての児童を守るために安全・安心に向けて

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、常に児童にとって最善の策を考えた教育活動を実施する。
- ・校舎改築にあたり、様々な制限がある中での教育活動を安全に行う。
 - 廊下や階段の安全な歩行
 - 休み時間の過ごし方 教員による見守り
 - 登下校の指導
- ・非常事態に応じ、児童の安全を第一に考えた臨機応変な対応をとる。
 - 安全点検、安全指導の徹底
 - 随時、破損、修理箇所については迅速に対応する。
 - いかなる状況でも安全に避難できるよう、想定を多様に設定し計画的な避難訓練の実施
- ・正しい知識を身に付け、自分の身は自分で守ることを育成する
 - セーフティ教室
 - 不審者やネット被害から自分の身を守るための対応方法について
 - 薬物乱用防止教室
 - 生き方教育の実施
- ・事故が発生しないよう確実なアレルギー対応を行う。
 - アレルギー対応委員会の実施
 - 複数による確認
- ・サービス事故を絶対に起こさないよう、一人一人の教職員が自覚をもつと
 - サービス事故防止研修の実施
 - 個人情報流出等の防止に向け、定期的に確認する
 - 危機管理意識の向上